

計画段階における複数案（位置・構造）の比較検討事例

事例 1 (仮称) 東京港臨港道路南北線建設計画(日本)

<事業・計画等の概要>

○事業・計画等の種類：道路の新設（約 2.5 km～約 4.2 km、往復 4 車線、臨港道路）

○アセス実施主体：東京都

<アセスの概要>

○複数案比較の方法：道路の位置及び構造について 4 つの案を設定し、比較検討を行った。

計画案		【A案】	【B案】	【C案】	【D案】
経路※1	起点	10号地その2埋立地		10号地その1埋立地	
	終点	中央防波堤内側埋立地	中央防波堤外側埋立地	中央防波堤内側埋立地	中央防波堤外側埋立地
構造		トンネル	橋梁	トンネル	橋梁
延長※2		約 2.5km	約 3.5km	約 3.5km	約 4.2km

※1：計画道路が既計画道路に接続するまでの区間

※2：延長は設計前であるため概略値

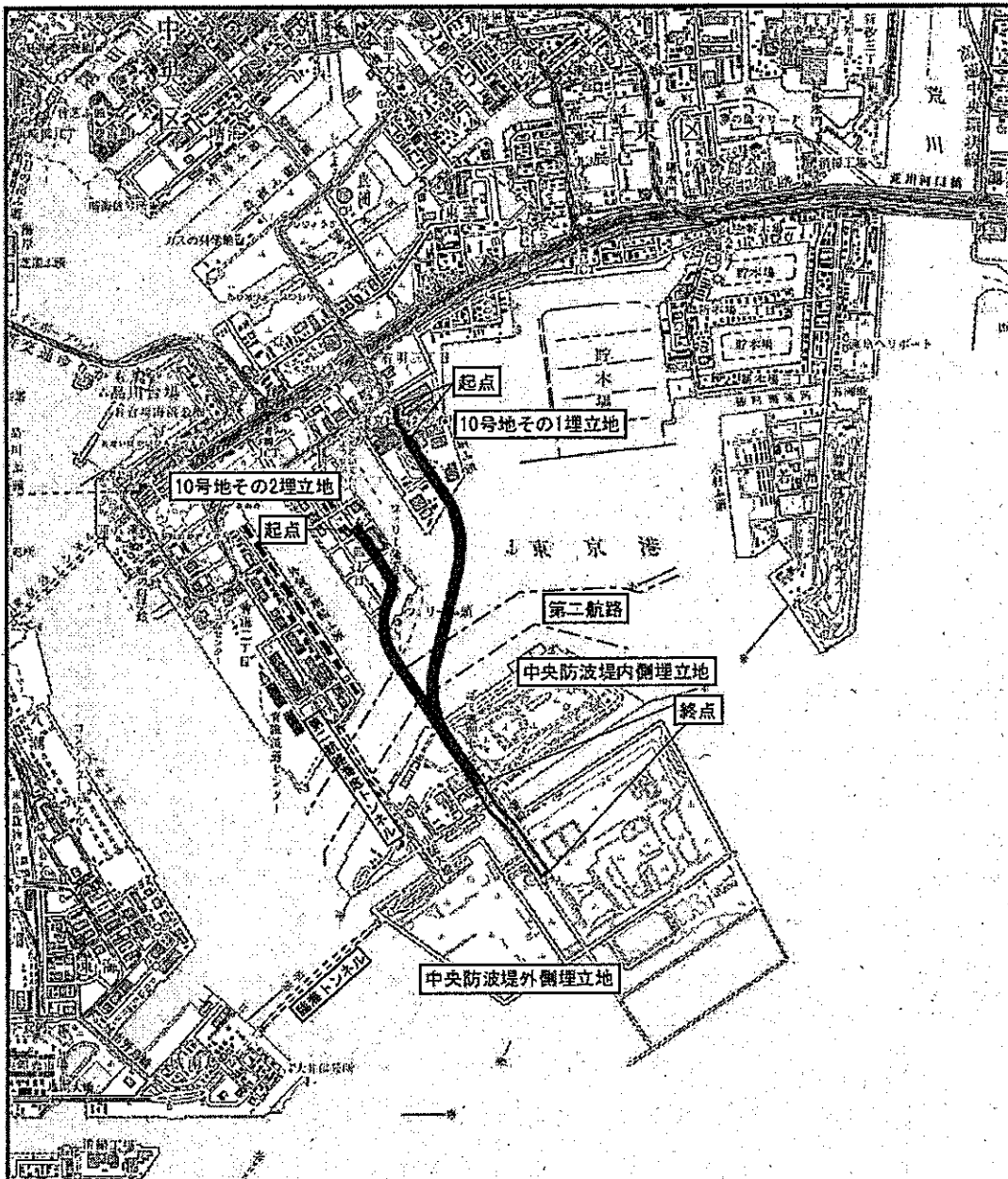
○評価項目：「環境影響の程度」、「環境目標の達成程度・環境の創出の程度」とともに大気汚染、騒音・振動等

○評価結果：A案及びC案は、トンネル構造であり大気汚染、騒音・振動ともに環境への影響が少ないが、C案は近接して病院があることから、A案が最も環境への影響が少ないとされた。B案及びD案は、橋梁構造であり、大気汚染、騒音・振動ともに環境への影響に配慮を要する案とされた。

※実施根拠：東京都環境影響評価条例

※策定時期：計画検討期間 H20 年 10 月～H21 年 3 月。現在、条例に基づく環境影響評価手続準備中。

出典：東京都環境影響評価条例ホームページ <http://www2.kankyo.metro.tokyo.jp/assess/274dtl.htm>



凡 例	計画道路	N 1:50,000  0 1km 2km
	: A案・C案 : B案・D案 : 第二航路	
	図3.1 計画道路位置図	

## 計画段階における複数案（位置）の比較検討事例

### 事例 2. 那覇空港構想段階(日本)

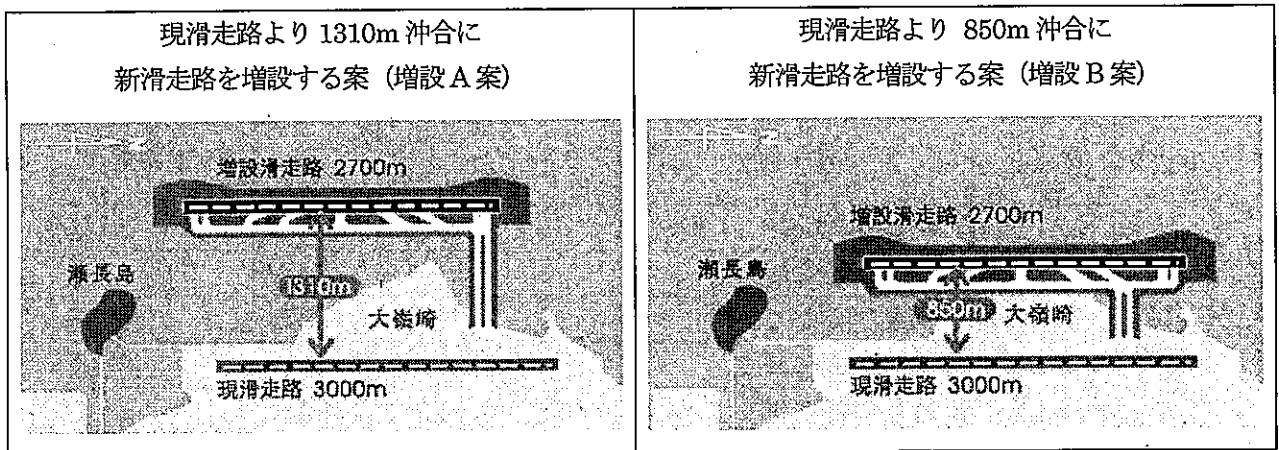
#### <事業・計画等の概要>

○事業・計画等の種類：滑走路 2700m の増設に係る構想段階

○アセス実施主体：内閣府沖縄総合事務局、国土交通省大阪航空局

#### <アセスの概要>

○複数案比較の方法：増設する滑走路の位置について、2つの案を設定し検討した。



○評価項目：水環境、生物の生息場及び生態系、大気環境（航空機騒音）等

○評価結果：両案とも沖側に滑走路を配置することから陸域に係る騒音の影響が改善されること、増設 A 案はサンゴ礁生態系への直接的影響が増設 B 案に比べ大きい、砂質干潟生態系への影響は増設 B 案の方が大きいこと、増設 B 案は大嶺崎周辺区域の改変が生じることなどが、評価において示された。

※実施根拠：戦略的環境アセスメント導入ガイドライン（H19.3）、公共事業の構想段階における計画策定プロセスガイドライン（H20.4）、一般空港における新たな空港整備プロセスのあり方(案)（H15.4）

※策定時期：計画検討期間 H20 年 8 月～H21 年 3 月。現在、法に基づく環境影響評価手続の準備中。

出典：内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 那覇空港プロジェクトホームページ

<http://www.dc.ogb.go.jp/Kyoku/information/nahakuukou/index.htm>

## 計画段階における複数案（配置・規模）の比較検討事例

### 事例3 Jacobswoudeにおける風力発電事業(オランダ)

#### <事業・計画等の概要>

○事業・計画等の種類：風力発電施設の新設

○アセス実施主体：風力発電所建設に関する協同組合（38名の土地所有者により構成）【民間】

#### <アセスの概要>

○複数案比較の方法：風力発電機の配置、規模及び総数について5つの複数案を設定し、検討した。

案	位置	規模 (風車一基あたり)	風車の総数
A	N207号道路の両側に1列ずつ	750kW	20基
B	N207号線の東側に1列	2MW	9基
C	N207号線の東側に2列	1.5MW	12基
D	開拓地域内全域に群立	950kW	21基
E	開拓地域北西部に群立	2MW	15基

○評価項目：鳥類、コウモリ、景観、風車建設による日射の影響、騒音レベル、CO2削減（利点）など

○評価結果：複数案について項目ごとの比較検討を行った結果、景観についてはB案が、自然保護についてはA、B、D案が、騒音についてはA案が、他案に比べて環境影響が少なかった。総合的には、B案が最も環境への影響の少ない案とされた。

※実施根拠：環境影響評価令

※策定時期：2001年に事業申請。本アセスはその前に実施された。

出典：<http://news.eia.nl/detail.aspx?id=24628>

[http://www.windmolensjacobswooude.nl/samenvatpage.html#3-De m.e.r.-7procedure](http://www.windmolensjacobswooude.nl/samenvatpage.html#3-De%20m.e.r.-7procedure)

## 計画段階における複数案（配置）の比較検討事例

### 事例4. 「Darlingtonにおける新規原子力発電所に関する建設準備、建設及び運転」事業 (カナダ)

#### <事業・計画等の概要>

○事業・計画等の種類：原子力発電機の新設（新規原子力発電所に関する建設準備、建設及び運転（敷地面積約485ha））

○アセス実施主体：Ontario Power Generation 社（電力事業者）。当該地の所有者で、既存の Darlington 原子力発電所を運営【民間】

#### <アセスの概要>

○複数案検討の方法：敷地内における発電機の配置を含め、冷却システム、使用済み燃料の保管方法、放射性廃棄物の管理方法等について複数案を設定し、評価を行った。

#### ■複数案の例

	案1) 中央送電施設から南東 0.7kmに2基、1.2kmに2基	案2) 中央送電施設から南東 1.2kmに2基	案3) 中央送電施設から南東 0.7kmに1基、1.2kmに1基
敷地内の 発電機の 配置、総数 等			
冷却 システム	i) once-through lake-water cooling system	ii) natural draft cooling tower	iii) mechanical draft cooling tower

○評価項目：大気環境、水環境、地質学的及び水理地質学的環境、土地利用、景観、放射能及び放射性物質による環境影響

○評価結果：例えば、冷却システムについて、ii)とiii)のシステムは大気汚染物質が拡散しやすいが、ii)のシステムは一般的に塔の高さが約150mとなり、高さ約20mのiii)のシステムと比較して景観への影響が大きいとされた。総合的な評価としては、保全対策を考慮すると、どの案についても当該事業による著しい環境影響はないと結論付けられた。

※実施根拠：カナダ環境アセスメント法

※策定時期：2006年から開始し、2009年に環境影響評価書を提出。

出典：[http://www.opg.com/power/nuclear/darlington/EA\\_Process/?path=Environmental%20Impact%20Statement](http://www.opg.com/power/nuclear/darlington/EA_Process/?path=Environmental%20Impact%20Statement)